



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例(第27回)

～他病院から在宅調整目的で受け入れたが、長期療養型病院へ転院となった例～

他病院で急性期治療を受けられ、自宅退院に向けての準備を目的として、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れしました。

地域包括ケア病棟は在宅復帰率(直近6ヶ月間の平均で70%以上)や入院期間(最大60日間)に関する事など、様々な制限があります。そのため、受け入れを検討する段階で、紹介元の医療機関に患者さんの病状やご家族の介護力などについて情報収集しています。また、必要に応じて直接ご家族と面談しています。ご家族面談では、改めて病状の確認の他、住環境や退院に関するご家族の意向等を直接、確認しています。自宅退院を希望された場合には、ご家族の介護力で自宅退院が可能かどうか、どのような介護サービスが必要か等、より具体的に相談させて頂いています。その際、必要があれば入院前から担当ケアマネジャーと連携し、自宅退院を前提とした受け入れを調整していきます。

しかし、自宅退院を希望されていた場合でも、転院後、退院に向けての準備や指導が実際に始めると、想像以上に“在宅介護”が大変なことがわかり、自宅にご本人を迎え入れることを負担に感じておられる場合があります。病状に対する理解が曖昧で「もっと良くなると思っていた」とおっしゃるご家族もおられます。そのような場合は、当初予定していた自宅退院から、他施設への転院へと方針転換を余儀なくされます。

入院前のご家族面談では、ご家族に対し、自宅で“在宅介護”はどのようなことなのか、より具体的にイメージして頂けるようにしていきたいと思っています。また、皆様におかれましても、“彩り”に紹介頂く際には退院に関する意向の確認についてご協力をお願い致します。

(地域医療連携室 主任 中嶋 庸介)

平成30年度第2回 地域包括ケア病棟“彩り”『事例紹介・情報交換会』

日時：平成30年11月29日(木) 午後2時00分～午後4時00分

会場：当院9階会議室

内容：①事例紹介 ②アンケート集計の結果報告 ③意見交換

○問い合わせ先：0774-73-1818(担当：中野・中嶋)

○別便でご案内します。



認知症の研修会があります。

以下の内容で、松本雅子看護師(認知症看護認定看護師)による研修会を開催します。奮ってご参加下さい。(詳細は別便でご案内します)

日時：平成30年12月4日(火) 午後5時30分～午後6時30分

内容：「急性期治療における認知症高齢者の状態と当院における認知症ケアについて(仮)」



地域包括ケア病棟“彩り”の動画作成について

当院事務職の若手職員が中心となり、地域包括ケア病棟“彩り”の紹介動画を作成中です。取り組みについて報告してもらいます。

*

当院は平成26年8月に、リハビリや退院支援など在宅復帰のための支援を行う「地域包括ケア病棟」を開設しました。

只今、地域の関係機関の皆様や地域住民の皆様に、当院の地域包括ケア病棟“彩り”を広く知って頂き、身近に感じて頂くために、“彩り”の紹介動画を作成中です。動画作成に際し、普段は接する機会が少ない患者さんや病棟看護師などのスタッフともコミュニケーションがとることができ、また、考えさせられることも多く、私自身も沢山のことを学ぶ良い機会になっています。



紹介動画を通じて、地域包括ケア病棟“彩り”で行っている様々な支援や病棟の雰囲気などを感じて頂けたら幸いです。11月中の完成を目指して担当職員一同、力を合わせて頑張っています。乞うご期待下さい。(事務局 総務担当 井関 良弘)

左図、前方右から時計回りに、久保(事務局)、山下(事務局)、三木(事務局)、福井(医事課)、井関(事務局)

『上を向いて歩こう』



坂本九が歌った曲として大変有名ですが、この曲は日本では1961(昭和36)年にリリースされ、ヒットしました。また、アメリカでは「sukiyaki(スキヤキ)」として売り出され、1963(昭和38)年に(アメリカのチャートでも)1位に輝きました。歌詞は前向きな内容で、60年近く経った今聴いても良い歌だと思います。

「上を向いて歩こう」がリリースされた1961(昭和36)年は敗戦から16年、3年後には東京オリンピックが開催される年で、敗戦からの復興と高度経済成長の時期に合致します。そのような時代背景から、「上を向いて歩こう」は多くの聴く人の心を掴み、名曲となったのかもしれませんが。

さて、地域包括ケア病棟“彩り”は、8月で4年を迎えました。開設当初は職員への周知から対象となる患者さんの選定、地域の皆様へ知って頂くための周知など試行錯誤の連続でした。しかし、広報誌Designやリーフレットの発行、研修会の開催など様々な取り組みを通じて皆様にも地域包括ケア病棟“彩り”を少しずつ知って頂くことができ、お陰様で、役割の一つである地域からの受け入れ(サブアキュート)を果たせるようになってきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

「上を向いて歩こう」がヒットしたように、この地域の“心(求められていること)”を“掴む”ことができたなら、今後も地域からの受け入れ(サブアキュート)をコンスタントに果たせるのではないかと、そして、歌詞のように、皆さんと一緒に“上を向いて歩く”ことができたなら、この地域の『地域包括ケアシステム』の構築が一層進むのではないかと、「上を向いて歩こう」を心の中で口ずさみながら、そんなことを思いました。

11月29日(木)の意見交換会では、皆様が“求められていること”を是非、お聞かせ下さい。皆様のご参加をお待ちしています。(地域医療連携室 室長 南出 弦)